４年生のみなさんへ

令和２年３月１３日（金）

みなさん元気に過ごしていますか？
最近、先生は毎日、大相撲を見ています。「みんなも見ているかなあ」と思いながら、朝乃山関を応えんしていますよ。
さて、今日は、相撲のお話。
（むずかしい言葉が出てきます。どんな意味かな？国語辞典で調べてみてね。）

大相撲春場所に想う　～「相撲に関わる人々」編～

無観客で迎える初日。「一体どんな場所になるのかな？」と少し心配でした。大勢の観客も声えんもなく、会場はテレビで見てもガランとしていることは、すぐに分かります。でも、新発見もあります。「次の行司（**ぎょうじ**）さんは、そこで待っているのか」「力士の座布団（**ざぶとん**）をサッと片付ける人がいる」「塩を持ってくる人がいる」などなど…無観客だからこそ分かる「発見」もあるのです。

さて、注目の初日。理事長だけが土俵に上がり、横綱（**よこづな**）をはじめ幕内力士全員が土俵下を囲んでいました。その光景は荘厳（**そうごん**）で大相撲が古来（**こらい**）から「神事（**しんじ**）」であることを改めて認識させられるものでした。そして、理事長のあいさつに先生はとても感動しました。

古来から力士の四股（**しこ**）は、邪悪（**じゃあく**）なものを土の下に押しこむ力があると言われてきました。また、横綱の土俵入りは五穀豊穣（**ごこくほうじょう**）と世の中の平和を祈願（**きがん**）するために行われてきました。

床山（**とこやま**）が髪をゆい、呼び出しが拍子木（**ひょうしぎ**）を打ち、行司（**ぎょうじ**）が土俵をさばき、そして、力士が四股をふむ。この一連の所作（**しょさ**）が、人々に感動を与えると同時に、大地を鎮（**しず**）め、邪悪なものをおさえこむのだと信じられてきました。

こういった大相撲のもつ力が、日本はもちろん世界中の方々に勇気や感動を与え、世の中に平安を呼びもどすことができる。　～略～

少し暗いニュースが続き、大人の先生でも、心まで落ち込みそうになります。でも、このあいさつを聞いて元気をもらいました。いつもは当たり前に見ていた相撲だけれど、一つ一つの所作の意味を知って、力士のみなさんをもっともっと応援したくなりました。今日は相撲に関わる「人々」に注目して見てみてください。

富山の星、朝乃山関は、５連勝中。今日も、テレビの前からみんなの応えんを届けたいですね。
がんばれ、朝乃山！！

つづく…